

卒業す一粒の麦地に播かれ

番條澄子



3月1日は卒業式です。戦後の新制高校になって以降、今回で普通科は73回目、理数科は50回目になります。2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震により、第一・第二体育館が使用できなくなり、急遽、講堂で行うことになりました。講堂は昭和8年完成。翌9年から昭和40年まで卒業式は講堂で行われました。講堂は登録有形文化財であり、同窓生の心の拠り所でもあります。いよいよ三年生が希望を胸に母校を巣立って行きます。大地に播かれた一粒の麦のように、卒業生は広い世界でどのような花を咲かせ、いかなる実をつけるのか。若駒たちの活躍を願っています。

模擬選挙が行われました

2月8日、1学年による模擬選挙が行われました。今回は未来の福島県知事選挙を想定し、事前に立候補者3名の政策に目を通した上で、論点である福祉政策、教育政策、労働政策に着目して投票が行われました。当日、生徒達は受付で投票用紙を受け取り、記載台で意中の候補者の氏名を投票用紙に記入したあと、一人ひとり投票用紙を投票箱に投じていました。また、開票結果は3階のフロアに掲示されました。生徒諸君には選挙の意義をあらためて理解するとともに、主権者としての意識を高め、よき有権者になって欲しいと思います。



おすすめ書籍



柳美里著『JR上野駅公園口』（河出文庫）

全米図書賞（翻訳文学部門）を受賞した話題作です。物語では、昭和8年に福島県相馬郡八沢村（現在の南相馬市鹿島区）に生まれた一人の男性が、出稼ぎのために上野駅に降り立ち、一度は故郷に戻りますが再び上京し、やがて上野公園でホームレスになります。運命に翻弄される主人公の生涯を通じて、東京大空襲、終戦、東京オリンピック、高度経済成長、バブル崩壊、東日本大震災など、戦中から戦後の日本の歴史が丹念に描かれており、経済発展の影で居場所を失った人々の存在について、あらためて考えさせられた作品でした。

福島県立医大に2名合格しました

2月16日、福島県立医科大学医学部学校推薦型選抜の入試結果が発表され、本校から2名（現役1名、既卒1名）の合格者が出ました。医学科に合格者を出すのは実に9年ぶりです。二人とも本校入学以来、医師を目指して学業に励んできました。その努力が報われ合格を勝ち取りました。私が二人の面接指導を行って感じたことは、それぞれ医師として相双地方の地域医療に貢献したいという強い意思と、進路達成に向けて努力を惜しまない姿勢でした。二人の今後の活躍を期待するとともに、1・2年生のよい目標になることを期待しています。



校長室に合格を報告に来た伏見葵君。前年度の生徒会長として学校行事を牽引してくれました。

令和3年2月13日福島県沖地震による本校の被害状況について

2月13日午後11時7分頃、福島県沖を震源とする強い地震が発生しました。相馬市や新地町で震度6強、福島市や郡山市などで震度6弱を記録し、各地に被害が出ました。今年東日本大震災から10年目。福島の復興も着実に進みつつあっただけに、まだ震災が終わっていないという現実を突きつけられたようです。福島の自宅にいた私は、緊急地震速報が鳴る前の突然の揺れに不意を突かれ、為す術もなく、ただ揺れが収まるのをじっと待つしかありませんでした。

翌日、相馬福島道路が安全確認のため、国道115号線が落石のため通行止めになったことから、飯館・原町線を通って相馬に戻りました。2月15日は校舎の安全点検と後片付けのため臨時休業とし、構造体の安全が確認できましたので、翌16日から学校を再開しました。今回の地震は震源が深く、揺れの往復時間を示す周期が1秒以下の地震波が検出されました。周期が短かったため建物への被害は少なかったと報じられていますが、本校の被害は思いのほか大きく、復旧と今後の対応に追われています。

本校の主な被害状況は以下のとおりです。

- ① 1階職員トイレ壁損傷
- ② 2階教室壁一部損傷
- ③ 第一体育館東側アクリル窓落下、西側ガラス窓落下、照明一機落下

- ④ 第二体育館ステージ天井落下、鉄筋ブレース損傷
- ⑤ 講堂モルタル壁剥落
- ⑥ 馬城会2階和室天井一部落下
- ⑦ 郷土資料室陳列ケースのガラス一部損傷

体育館は二つとも使用できない状態ですので、体育の授業や部活動に支障が出るのは明らかです。どのように対応するか見通しが立たず、今後の課題となっています。また、早急に校舎の復旧工事を進め、一日でも早く平常に復帰できるよう努めたいと思います。生徒や先生方にも、自宅の屋根瓦や壁が損傷を受けたり、給湯器が倒壊したりするなど、被害が多数ありました。紙面を借りて、被災された方々にお見舞いを申し上げるとともに、落ち着いた生活に戻ることを心より願っています。

建物はデザインや外観も大事ですが、まずは地震などの災害に強い構造で安全が確保されることが最優先されるべきだと思います。旧制相馬中学出身で世界的な建築家ランク・ロイド・ライトに師事した遠藤新は晩年、終戦直後の学校建築について文部省に数々の提言を行いました。現在の校舎を見たら大いに嘆いたことでしょう。今回の地震を教訓とし、耐震性の強化を図る抜本的な対策が求められています。



1 学年SDGs探究学習成果発表会が行われました

2月4日、1学年によるSDGs探究学習成果発表会が行われました。今回は各クラスの代表とブリティッシュヒルズ英語研修参加者から選ばれたグループ、計4グループが発表しました。それぞれの発表は質の高い内容で素晴らしいものばかりでした。また、発表者の豊かな表現力に聴く者も引きつけられました。生徒全員で食糧問題、セクシャルマイノリティの問題、海洋汚染、気候変動など幅広いテーマについて理解を深めるとともに、「自分たちに出来ることは何か」について考えました。今年は地球規模の課題に取り組み、来年度は自分たちが住む地域の課題に取り組む予定です。グローバルな課題は、必ずローカルな課題でもあります。生徒諸君には探究学習を通じて、知識のみならず、思考力・判断力・表現力を身に付けるとともに、問題発見力と問題解決力を培って欲しいと思います。また、仲間と対話を重ねながら発表を作り上げる喜びも感じて欲しいと思います。最後に来賓の長谷川勇紀氏（NPO法人カタリバ）より講評をいただきました。



- 【1組代表】「100年後に明るい食卓を」
大野初花・今野未空・水戸暖乃
- 【2組代表】「セクシャルマイノリティの生きやすい世界」
菅野和子・只野鈴・富田紗那
- 【3組代表】「プラスチック廃棄物による海洋汚染の現状」
佐々木航・寺島詩織
- 【4組代表】「気候変動に具体的な対策を」
佐藤佑樹・藤原未空・青田日和
- 【英語研修代表】「To protect the richness in the sea life」
大野初花・水戸暖乃・杉本菜・田中愛梨
但野美沙希

卒業生による進路講演会が行われました

2月19日、6人の卒業生を講師としてお招きし、進路講演会が行われました。進路指導部長の山家勝憲先生が司会を務め、講師の皆さんより自己紹介として大学生活などの近況報告があり、その後、高校時代の勉強と部活動の両立、苦手教科の克服方法、理系科目（数Ⅲと理科発展2科目）の学習方法などのテーマについてお話をいただきました。また、質疑応答の時間には、参加した生徒から、大学での講義、古文の勉強の仕方、勉強時間の作り方、面接試験への対応、眠気の克服方法、SNSの上手な使い方などについて質問がありました。先輩からはユーモアを交えた具体的なアドバイスがあり、生徒たちも真剣に耳を傾けていました。講師の皆さんは卒業して1年。懐かしい母校で成長した姿を見せてくれました。



- 【講師】
稲垣颯一郎君（東北大学文学部1年）
鹿山あゆみさん（群馬大学理工学部1年）
小林 航太君（岩手大学農学部1年）
山本 楽人君（福島大学共生システム理工学類1年）
伏見 葵 君（福島県立医科大学合格）

イノベ成果報告会が行われました

2月22日、福島イノベーション・コースト構想に係る人材育成事業成果報告会がオンラインで行われました。本校からは今年度実施した講演会、出前授業、施設見学、調べ学習、英語研修等に取り組んだ成果について、1・2年生の代表が発表しました。1年生の代表は田中愛梨さんと伏見寧々さん、2年生の代表は荒竜馬君と菅原ゆうひさんです。



「3月11日のあのね」展が行われました

2月11日から14日まで相馬市民会館において、「3月11日のあのね」展が行われました。2011年の東日本大震災当時、相馬市立中村第二小学校の三年生が描いた147点の作品が展示されました。作品は10年間に全国を巡回し、各地で展覧会が開催され、多くの方に感動をもたらしました。当時の小学三年生は今や高校三年生。その中には本校生徒も多数含まれており、最終日には生徒たちに作品が返却されました。生徒諸君は10年ぶりに自分が描いた絵と対面し何を思ったのでしょうか。

同窓生列伝②折笠晴秀（1885-1965）続編

太平洋戦争末期、神風特別攻撃隊第一陣の一人として戦場に散った中野磐雄は、昭和12年4月に旧制相馬中学校に入学し、昭和17年3月に卒業しました。その後、海軍甲種飛行予科練の練習生に合格し土浦海軍航空隊に入隊。三沢海軍航空隊、徳島海軍航空隊等を経て第201海軍航空隊に編入。昭和19年10月25日、フィリピンのルソン島マバラカット基地を発進し、スルアン島の北東沖でアメリカ軍空母を奇襲し壮絶な最期を遂げました。この報は新聞によってすぐに伝えられ、国民の知るところとなりました。「万世に燦たり神鷲の忠烈」の見出しが踊る記事に、国民の多くが沸き返ったと言われています。中野は軍神と讃えられ、原町の実家には弔問客が訪れ、全国よりお悔やみや感謝の手紙が届きました。

当時の福島民報を見ると、故郷原町ではその功績を顕彰する計画が持ち上がり、教育会、馬城会、郡町村長会、在郷軍人会などが中心となって、彼の伝記や遺影の県内各学校への頒布、飛行服姿の中野の胸像二基の相馬中学、原町国民学校への安置、原町夜の森公園での顕彰碑の建立などが立案されました。また、顕彰会が結成され委員長に中村第一国民学校長の津田達造が就任し、副委員長に名を連ねたのは馬城会々長の折笠晴秀でした。馬城会は会長の折笠が中心となり、顕彰碑建立資金の醸出を決定しました。学徒勤労員で川崎市の東芝大宮工場に生徒を引率していた岩崎敏夫教諭が、折笠を訪問しいろいろと打合せを行った11月24日は、中野の顕彰計画が検討されていた時期であり、馬城会からの支援についても話し合いが行われたと推測されます。

～特攻隊員中野磐雄顕彰会副委員長就任について～

相馬中学でも中野の功績が生徒に伝えられました。「教務日誌」によれば、同年10月30日、宮本行二校長が中野に関する講話を行い、翌日に原町の中野家を弔問しています。中野家からは相馬中学に対し航空研究費五百円が寄付され、12月13日、校長が滑空機（グライダー）の資金に計上する旨の訓示を行いました。また、翌20年2月8日、校長が原町で行われた中野顕彰会の打合せに出席。2月24日、中野の遺影が講堂に奉掲され、2月25日の朝礼では校長が顕彰計画に関する訓話を行いました。

こうして盛り上がりを見せた中野顕彰計画は、その後、戦局の悪化と敗戦により下火になっていきました。それを裏付けるように3月22日の「教務日誌」には、相馬中学の進級会議の席上、中野忠魂碑建立の見合わせの件が報告されています。結局、顕彰碑が建立されたのは35年後の昭和55年のことです。中野の小中学校の同級生が中野磐雄慰霊顕彰会を設立し募金活動を行いました。胸像は原町在住の彫刻家佐々木光男氏に依頼。命日の10月25日に顕彰碑の除幕式が行われました。以上のように、戦前の折笠は馬城会の立場から中野顕彰計画に関わりました。



左：神風特攻隊第一陣の奇襲を報じる福島民報
右：夜の森公園に建つ中野磐雄の胸像